

# 教育相談課だより No.7

## 人間関係の基礎を培う ソーシャルスキル

学校内で起きる事件は、これまでも数多く発生しています。その度に、様々な分野の学者や教育関係者がその原因を探り、対策を提案するのですが、残念なことに後を絶ちません。つい先日も、教師が被害者となる傷害事件が発生しました。原因を一つに絞ることはできないと思いますが、一つの考え方としてスキルの問題

があると考えられます。こうした問題の多くは、人間関係に起因するからです。相手の感情を推し量ったり、自分の感情を適切に処理したりするスキルを身につけることは、人間関係をうまくやっていくためには必須でしょう。

学校では、お互いに何を考え感じているのか、相手に伝える必要があります。黙っていたのでは分からないので、具体的な言葉や表情、身振りに託して、お互いが相手に思いを伝えています。それらの具体的な方法やコツのことをソーシャルスキルと呼びます。これらのソーシャルスキルが身につけていない児童生徒が多いことは、以前から指摘されており、社会構造の変化（少子化、核家族化、共働き世帯の増加等）が大きく関わっていると言われていています。ここに人間関係がうまくいかない原因の一つがあるとされ、学校において「ソーシャルスキルトレーニング」と呼ばれる手法で、スキル不足を補う必要があるのです。また、こうしたスキルは、今求められている「主体的・対話的で深い学び」の根幹をなすものと考えます。いくら対話的な学びの場を設定しても、一方的に自分の考えを主張するだけでは対話とは呼ばないからです。ソーシャルスキルは一方的なものではなく、双方向なものでこそ、効果的なのです。

学校では、児童生徒同士の関係だけでなく、教師と児童生徒の人間関係もあります。ソーシャルスキルトレーニングでは、“モデリング”の場面があります。ロールプレイなどを用いて、スキルの手本を見せる場面です。この“モデリング”ですが、最も効果的なのは、普段の学校生活での教師の姿と言われています。つまり、普段の教師の一挙手一投足が児童生徒に与える影響が大きいということです。その意味で、児童生徒を教える教師自身がソーシャルスキルを身につける必要があると考えます。

茨城県教育研修センター教育相談課では、平成22・23年の2か年間、「教師のためのソーシャルスキルトレーニング」の研究を行い、その成果を研修講座にも活用しています。先日は、小学校の先生方を対象に、「オープンマインドスキル」「傾聴スキル」「私メッセージスキル」「コーチング会話スキル」の四つのスキルについて、研修を行いました。受講者からは、「大事だと分かっているけど、普段の忙しさに流されて、できていなかったことに気付かされた」等の感想が聞かれました。ソーシャルスキルはあくまでも技能であり、技能を身につけるためには練習が必要です。また、使えなければ意味がありません。質より量で、どんどん使うことが大切です。使っているうちに、量が質に変わる瞬間がやってきます。



若手教員は、ベテラン教員に比べて、ソーシャルスキルが身につけていないと言われるかもしれませんが、当然、経験が浅いわけですからそうしたこともあるでしょう。大量退職・大量採用時代を迎え、若手教員が増加する今だからこそ、こうした研修の重要性が高まると考えます。